

推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



## 実践事例

### 渋谷区立幡代小学校

#### 【実践の概要】

飼育委員会を中心とした児童が、学校担当獣医師から、うさぎは室内で飼った方がよいことや固形飼料より自然の草の方がよいことなど飼育動物の住環境の整備、日常の世話に関するお話を伺いました。



獣医師からの御指導を受ける児童

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師に来校いただき、保護者や地域の方々に直接、動物飼育の意義や目的について、御指導をいただきました。



獣医師の話聞くボランティアの皆様

保護者の皆様や地域の方々を中心に組織され、ウサギ飼育に関わる様々なサポートをしてくださっている「うさぎボランティア」の皆様にも参加いただき、一緒にお話をお聞きしました。

#### 【児童の反応】

- 普段私たちがやっているお世話も、一つ一つ意味があったり、もっと注意しなければいけないことがあったりすることが分かった。
- ウサギの毛づくろいや爪切りなどが、ウサギが健康に生きていくためにとても大事だということを知りました。



## 実践事例

### 中野区立上鷲宮小学校

#### 【実践の概要】

- 学校担当獣医師から、モルモットの病気や体調の不良を表す症状、伸びすぎた爪の管理、などの健康面や、えさとして与えてよいもの、適した室温、小屋に必要なものなどの環境面について御指導をしていただきました。
- 月に1回程度、学校担当獣医師による健康診断を実施し、モルモットの健康管理や小屋の環境について御助言をいただきました。



学校担当獣医師による授業の様子

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師から、月ごとに健康診断をしていただきました。また、低学年と飼育委員会へ、飼育上の注意点やモルモットの特性について御指導いただきました。
- 夏季休業中と冬季休業中の「モルモットホームステイ」として、保護者に家庭での飼育を募集しました。希望者には飼育の手引きを配布し、動物病院の連絡先などを掲載し、緊急時にも対応していただけるようにしました。

#### 【児童の反応】

- 飼育する動物の健康状態や、住環境を意識しながら飼育に取り組むようになりました。毎日の健康観察や、食事、糞の量、体重の計測など健康状態をこまめに確認するようになり、モルモットの体調の異変にもすぐに気が付くようになりました。
- 「モルモットが住み心地の良い場所にしよう。」という目標を掲げ、飼育小屋や教室で観察する他、ケージの清掃にも意欲的に取り組むようになりました。



## 実践事例

### 八王子市立宇津木台小学校

#### 【実践の概要】

- 第5学年及び第6学年の飼育委員会の児童がウサギ小屋の清掃、水換え、えさやりをしました。
- 学校担当獣医師に見ていただき、世話の仕方と健康状態の確認の仕方、抱っこや爪切りの仕方について御指導・御助言をいただきました。



ウサギの特徴などを聞いているところ

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、学校担当獣医師をお迎えして、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等を確認いただいた後、御指導・御助言をいただきました。
- ウサギを刺激しない上手な抱っこの仕方や爪を切る方法を教えていただきました。
- ウサギ小屋の環境衛生について、糞の始末や掃除の仕方などを教えていただきました。



実際にウサギを抱っこして健康状態を確認

#### 【児童の反応】

- ウサギの生態を知ることによってウサギに興味をもち、ウサギが快適に過ごせるように、糞の始末や小屋の掃除を今までよりも丁寧に行うなど、飼育活動に関する意欲が高まってきました。
- ウサギを抱っこして、体の様子をよく観察することで、愛着をもって接しようとする児童が増えました。



## 実践事例

### 青梅市立第七小学校

#### 【実践の概要】

7月…前期の飼育・栽培委員会児童対象に指導

12月…後期の飼育・栽培委員会児童対象に指導

指導項目

- ・ウサギの世話の仕方（抱き方、えさの種類と量、清掃）
- ・ウサギの爪切りの方法とその必要性
- ・ウサギの体重測定の方法と、実測、継続的な測定の必要性
- ・ウサギの飼育日誌の書き方の確認と、ウサギの個体カードの作成の仕方



12月の委員会活動の時間に、学校担当獣医師の御指導の下、ウサギの体重を測っている様子と、体重を記録に取ろうとしている児童の様子

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

普段は、第4学年から第6学年までの飼育・栽培委員会の児童（前期・後期制・各5名）を中心に、ウサギの日常的なえさやりや清掃活動等を行いました。

最初の学校担当獣医師との打合せの時に、学校担当獣医師より、学校の実態から委員会児童を対象とした授業を行いたいとの提案を受け、年2回、実施する計画を立てました。

学校担当獣医師からは、授業実施前に、ウサギ用の爪切り、爪を切っているときにウサギの精神的なストレスを軽減するための大きめのバスタオルを3枚程度、体重測定用の秤、測定の際にウサギを入れる小さめのケース（本校では段ボール箱）などを用意するように依頼され、購入しました。

#### 【児童の反応】

- ・ウサギの体重が分かった。ウサギによって体重が違うことが分かった。
- ・ウサギの爪が長く伸びていて、人間と同じように、爪を切ることが大事だと分かった。
- ・ウサギの爪を切るときに、血が出ないように切るのが難しかったけれど、頑張って切れた。
- ・バスタオルでウサギをくるむと、ウサギが落ち着いたので、安心して爪を切ることができた。
- ・昇降口の前にケージを置いて、ウサギとの触れ合い体験期間を設定したときに、ケージの上にウサギの個体カードを置いたこともあり、たくさんの児童がケージの前で、ウサギの名前を呼んでかかわったり、それぞれの違いに気付いたりすることができた。



## 実践事例

### 小平市立小平第九小学校

#### 【実践の概要】

- 第5学年及び第6学年の飼育委員会児童がウサギのケージの掃除、水替え、えさやりを行いました。
- 学校担当獣医師による健康観察を行いました。爪切り、電話による健康相談にも対応していただきました。
- 第1学年及び第2学年の児童は、学校担当獣医師から、ウサギの飼育方法について教わりました。
- 教員向けの研修を行い、学校担当獣医師から、ウサギの飼育方法について教わりました。



第2学年 飼育ケージの清掃

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会の児童に向けて、学校担当獣医師をお迎えし、飼育環境についてプレゼンテーションを交えてお話をいただきました。
  - ① 2羽のウサギは一緒に放すと喧嘩してしまうので、分けて飼育する。
  - ② 抱っこするときは座りながら優しく抱き上げる。
  - ③ えさに牧草（チモシー）をあげることで、歯に良い影響がある。
  - ④ 暑さや寒さが負担になるため、室内飼いを推奨する。上記についてお話をいただいたので、次年度以降の飼育活動にも活かしていきます。

#### 【児童の反応】

- 児童はウサギの生態について学習したことを活かし、毎日の健康観察や動物の異変を、意欲的に観察していました。
- 委員会の担当ごとにお互いに気付いたことを教え合う様子や、助け合う場面も何度も見られました。責任感をもって取り組んでいました。